

第1回  
意見聴取検討会  
H15.8.11

参考資料 - 3

# 関係住民の意見聴取の 先進事例について

# 関係住民の意見聴取の 先進事例について

平成15年8月11日

紀の川流域委員会 庶務

# 先進事例のアンケートの周知・実施方法

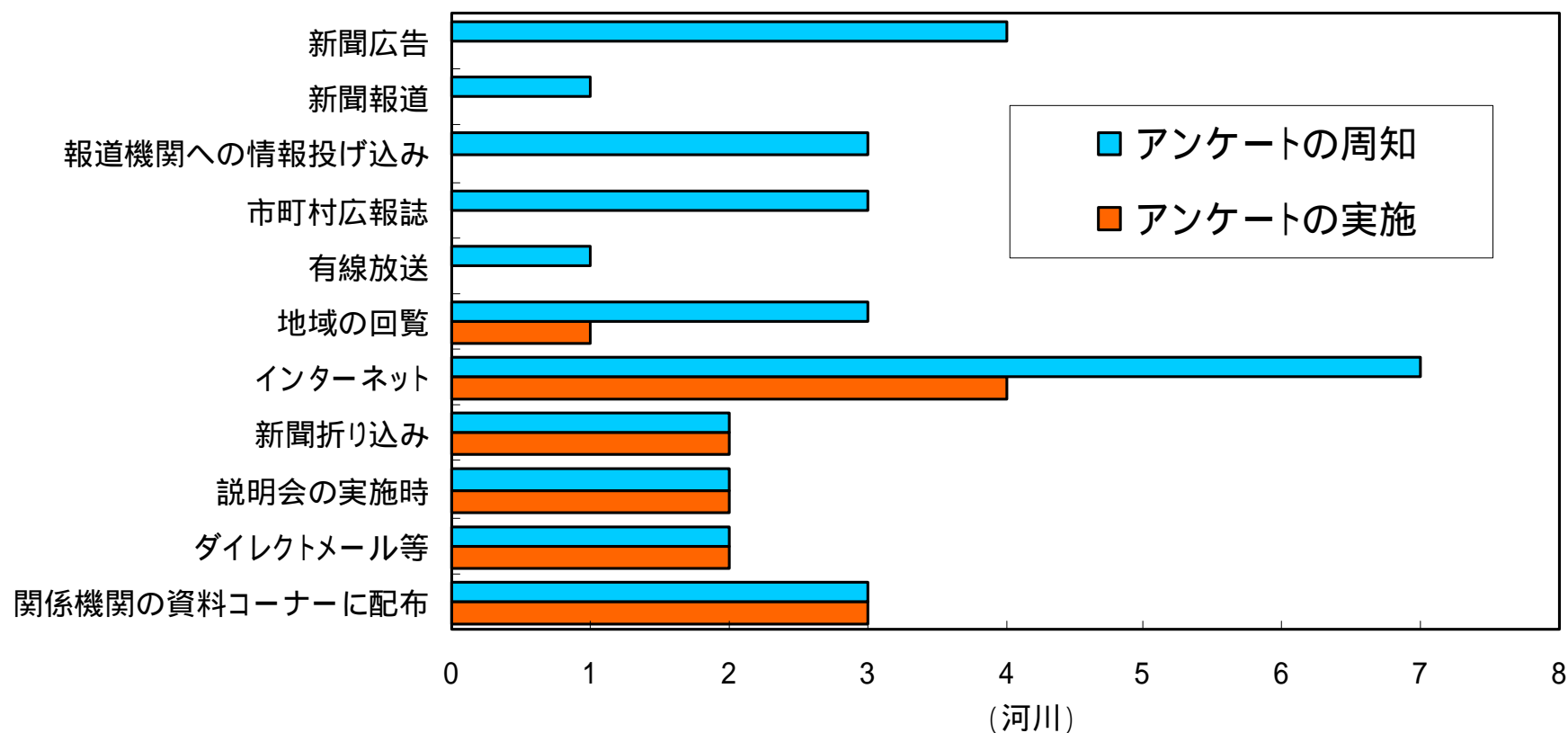
アンケートは、整備計画原案策定の前後に実施したものを対象とした

	留萌川	沙流川	多摩川	豊川	由良川	中筋川	大野川	白川
新聞広告		-						
新聞報道		-						
報道機関への情報投げ込み		-						
市町村広報誌		-						
有線放送		-						
地域の回覧		-						
インターネット		-						
新聞折り込み		-						
説明会の実施時		-						
ダイレクトメール等		-						
関係機関の資料コーナーに配布		-						
アンケートの実施時期 (整備計画原案の策定の前後)	後		前	後	前	後	後	前

## 凡例

アンケートの周知	...
アンケートの周知・実施	...

# 先進事例のアンケートの周知・実施件数



- ・アンケートの周知には、「インターネット」、「新聞広告」を多く用いている。
- ・アンケートの実施には、「インターネット」、「関係機関の資料コーナーに配布」を多く用いている。

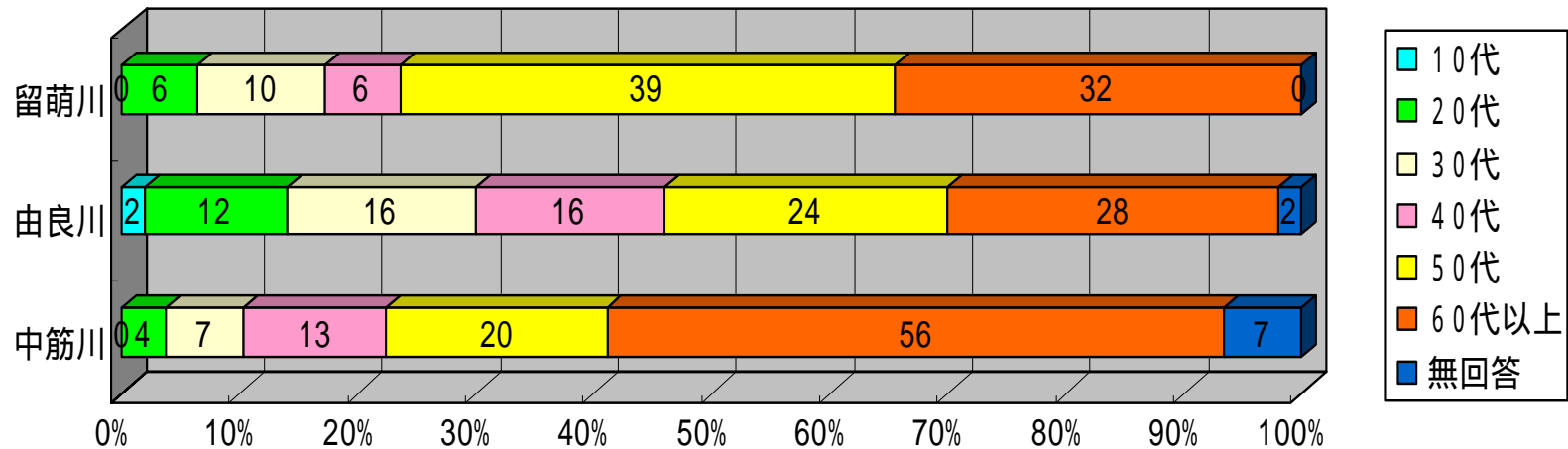


# アンケート実施方法における意見の回収状況

アンケートの実施方法	配布数	回収	回収率	河川名	実施時期	備考
地域の回覧	6,000	206	3%	中筋川	原案策定後(平成13年9月)	区長の協力の元で各戸配布
インターネット	-	7	-	由良川	原案策定前(平成12年8月)	
インターネット	-	11	-	大野川	原案策定後(平成12年2月)	
インターネット	-	数件	-	豊川	原案策定後(平成12年9月)	
新聞折り込み	17,300	52	0.30%	留萌川	原案策定後(平成13年2月)	返信葉書を添付
新聞折り込み	137,000	12,753	9.3%	白川	原案策定前(平成11年12月)	返信封筒を添付
説明会の実施時	498	290	58%	豊川	原案策定後(平成12年9月)	説明会の参加者に配布
ダイレクトメール	3,000	1,097	37%	由良川	原案策定前(平成12年8月)	ランダムに抽出
関係機関の資料コーナーに配布	4,271	135	3%	豊川	原案策定後(平成12年9月)	出張所や関係市町役場等に設置
関係機関の資料コーナーに配布	2,000	326	16%	由良川	原案策定前(平成12年8月)	
河川管理者による直接面接	550	550	100%	多摩川	原案策定前(平成10年3月)	沿川の10地点において50人ずつ実施

- ・インターネットはあまり利用されていない。
- ・「新聞折り込み」や「回覧」では、多くの人にアンケートを配布できるが、回収率は低い。
- ・回収率の最も高かったものは、河川管理者が直接河川利用者に対してアンケートを実施した「直接面接」である。
- ・また、アンケート被験者が自主的にアンケートを取りに行く「関係機関の資料コーナーに配布」や「説明会の実施時」においても、回収率は高い。

# アンケートの回答者の年齢構成



回答者のうちの40代以上が大多数を占めている。  
また、パソコン利用層との関係もある様に思われる。  
つまり、高齢層になればなる程、パソコン利用が少ないのではないかとと思われる。

# 淀川での事例 (住民意見の反映基準)

淀川流域委員会の事例では、意見を反映する際の場合の採  
択基準として、以下の4点をあげている。

- ①意見そのものを採用(全部あるいは一部)する。
- ②意見の精神(または趣意)を採用する。
- ③意見を一部修
- ④意見をベースにして更に敷衍して採用する。

また、意見を反映しない基準としては、以下の6点に分類される。

法の規定や趣旨にそぐわない  
実施不可能(技術的問題、制度的問題など)  
河川整備の方向性(流れ)に逆行している  
必要性がない  
社会的意義が低い、もしくは、無い  
社会的合意が得られない、もしくは、得られそうにない



# 多摩川での事例

## (反映されなかった住民意見の事例)

河川整備計画に反映されなかった事項	
河川整備計画策定後における各種施策の実施段階での意見	
例	「多摩川水系河川整備計画」だけでは、いかにも役所が作った固いイメージになってしまう。「～多摩川未来プラン」のような副題、愛称を市民に募集してはどうか。
基本方針に関する意見	
例	・基本高水流量、計画高水流量の見直しがどうなっているのか
行政と市民等のパートナーシップの形成等に関する意見	
例	・パートナーシップには、なあなあのお仕組みをつくってしまう危険もある。これからのいい川づくりは、人間の欲から一步引くことが重要で、川本来の自然を取り戻すことだと思う。川は都市全体の中で考えないと、例えば野川のくじら山原っぱや、湧水の問題ひとつにしても解決できない。
流域セミナー等の進め方に関する意見	
例	・自分たちで使った水はすぐにきれいにして川に戻す、という考え方を国レベルで取り組む提案をこのセミナーで出してほしい
河川整備計画等の情報開示等に関する意見	
例	・案として作ったものを、きちんと国民にフィードバックしていく必要がある
特定の場所での整備に関する要望等の事項に対しての意見	
例	・ゴルフ場の細流をボーリングして保全したい
その他(反対意見、合意できていない意見)	
例	・魚道だけでなく、船や人も川をのぼれるような堰の工夫をして欲しい